

2023 年度 SDG s 週間 活動レポート

株式会社横浜八景島

株式会社横浜八景島では、働く全てのスタッフが積極的に参加するプロジェクトを「未来を動かす、みんなで動かす。ほほえムービング」と称し、すべての生きものがかわる地球環境を守ることに積極的に取り組んでいます！

本年度も9月のSDG s 週間に合わせ、各事業所では地域の特性や外部団体・企業と連携した様々な啓発活動を実施いたしました。

活動を通じて地域の環境問題や海洋ゴミ、資源ゴミの実態、生きものに与える影響などを知る機会を創出し、地域の方々と連携した活動、これから継続して取り組む目標を再認識することができました。

株式会社横浜八景島は継続したサステナビリティアクションを通じ環境改善に貢献してまいります。

『横浜・八景島シーパラダイス』

報告レポート

「横浜・八景島シーパラダイス」では、国際的な「SDGs 週間」に併せて9月16日（土）～25日（月）の期間「シーパラダイスのSDGs 週間」と題しさまざまなサステナビリティアクションを行いました。

1. SDGs シアター～シーパラのこどもたち～

水族館「アクアミュージアム」では、特別プログラム「SDGs シアター」を本期間中に特別バージョンでお届けしました。水族館の役割の1つである「種の保存」への取り組みについて、当館で撮影した繁殖活動等の貴重な映像を交えながら、飼育員による解説を行いました。

また9月16日（土）の「国際レッサーパンダデー」に併せて、9月11日（月）～18日（月・祝）の期間は、レッサーパンダデーへの理解を深め、その魅力や野生での現状、保全の必要性を知っていただくため、特別バージョンにて実施いたしました。

プログラム内では実際に生きものに“ごはん”をあげたり、さわったりし、より身近に生きものを感じながら生きもの魅力について学んでいただきました。

2. フォレストリウムガイドツアー・東京湾ワンダーウォッチャーズ SDGs 特別バージョン

ガイドツアーとフィーディング体験がセットになったプログラム「フォレストリウムガイドツアー」と東京湾でくらす生きものに実際にさわったり、観察しながら、自然の海にくらす生きものや海を取り巻く環境についてレクチャーをおこなう「東京湾ワンダーウォッチャーズ」もSDGs 仕様でお届けしました。さらに「シーパラダイスのSDGs 週間」開催中に、上記3つのプログラムにご参加いただいたお客さまには、シーパラダイス30周年を記念した「ほほえムービングオリジナルポストカード」も参加者1名つき1枚プレゼントし、水族館で学んだことを自宅などに持ち帰り、日常でもSDGsについて考えただけの機会を提供いたしました。

3. 横浜・八景島シーパラダイス公式 SNS (X・Facebook・Instagram) での投稿

期間中、横浜・八景島シーパラダイス公式 SNS にて毎日1回の投稿を行い、海の生きものや素晴らしさ、環境について、当施設のSDGsの取り組みを紹介いたしました。



【レッサーパンダ】



【オリジナルポストカード】



【SNS での発信】

『マクセル アクアパーク品川』

報告レポート

「マクセル アクアパーク品川」では、国際的な「SDGs週間」に併せた9月16日（土）～25日（月）の期間に「サステナウィーク」と題しさまざまなサステナビリティアクションを行いました。

1. “品川生まれ・育ち”の稚サンゴの特別展示

2020年より取り組んでいる“サンゴ礁再生活動”。特に“有性生殖”での繁殖に力を入れており、2021年には閉鎖循環水槽内での人工海水を使用したサンゴの産卵を日本で初めて観察し、翌年には受精・着床にまで至りました。サステナウィークでは、今年5月に産卵が確認され、現在も成長を続けている“品川生まれ・育ち”の稚サンゴ（種類：ヤングミドリイシ）を公開しました。

2. 解説プログラム「まいにちサンゴトーク」

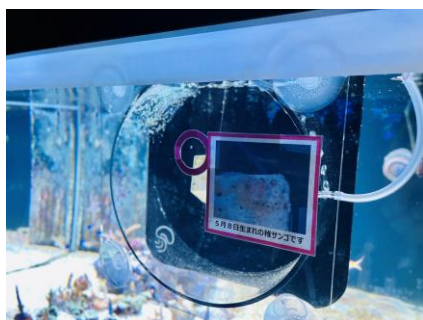
毎週土曜日に開催中の「サンゴトーク」をサステナウィーク期間中は毎日開催。日々サンゴに携わるスタッフが魅力あふれる生態やユニークな繁殖方法を解説。また、近年問題視される“地球温暖化”にも言及し、海水温の上昇が続くとサンゴがどうなるのか？海からサンゴ礁が消えるとどんな影響があるのか？などを問題提起し、ご来館いただいたお客さまと一緒にこれからの私たちができることを考えました。

3. 生きものたちのパパママトーク

2023年8月に誕生した、アクアパーク品川で生まれ育った個体の展示や繁殖、生きもののライフサイクルに特化したエリア「リトルライフ」を舞台に、成長を見守ってきた飼育スタッフ（＝パパママ）がそれぞれの生きものの生態や繁殖、観察ポイントなどをご来館いただいたお客さまに魅力たっぷりとお話しました。

4. イルカたちのすむ海のおはなし

「バンドウイルカ」、「オキゴンドウ」、「カマイルカ」が活躍するパフォーマンス会場「ザ スタジアム」では、イルカたちが暮らす海の環境について一緒に考える解説プログラムを行いました。ペットボトルやビニール袋などの“プラスチックゴミ”は自然界で分解されず、生きものが暮らす川や海に流れ着き、生きものにどのような影響を与えるのかを解説し、当館でのプラスチック削減への取り組みもあわせて紹介しました。



【品川生まれ 稚サンゴ展示】



【まいにちサンゴトーク】



【生きものパパママトーク】
2023年10月7日（金）

『仙台うみの杜水族館』

報告レポート

「仙台うみの杜水族館」では、9月2日（土）～23日（土）の期間に環境について学べる体験型SDGs啓発イベント「うみの杜サステナビリティアクション」を行いました。

1. 親子で学ぼう！「海洋ごみってなあに？」

ビーチクリーン活動に取り組むゲストをお招きし、飼育員とのトーク形式で海洋ごみ問題についてお話ししました。9月2日（土）は海辺の図書館 館長の庄子隆弘さま、9月3日（日）にはセブンビーチプロジェクト代表の久保田靖朗さまにお越しいただきました。ご参加いただいたお子さまには、海洋ごみでつくるリサイクル万華鏡キットをプレゼントし、翌週の深沼ビーチクリーン活動参加の呼びかけも行いました。



2. サンゴ染めエコバッグづくり

サンゴの骨格をスタンプのように使って、オリジナルエコバッグを作る体験プログラム「サンゴ染めエコバッグづくり」を行いました。お気に入りのサンゴや海の生きものスタンプを組み合わせて作ったオリジナルエコバッグで、レジ袋などプラスチック製品の削減に期待しています。

3. 深沼ビーチクリーン

深沼海水浴場で毎月第2日曜日に行われている、深沼ビーチクリーン（主催：フカヌマビーチクリーン）活動に水族館職員が参加しました。地域のみなさまと協力しながら、地域社会に貢献する活動として牡蠣の養殖で使われる豆管を多く拾いました。深沼ビーチクリーンでは拾った豆管を集め、再利用する活動も行っています。



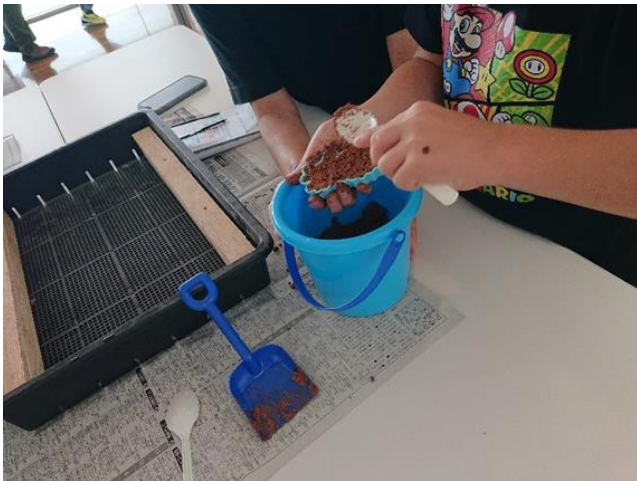
4. 匠が教えるものづくり

9月16日（土）～18日（月・祝）の3日間、厚生労働省が認定した、高度な技能と長年の実務経験を有している専門家である“マイスター”がものづくり体験のレクチャーを行いました。

（主催：宮城県技能振興コーナー）

5. うみの揺りかご “アマモ” について知ろう！

アマモやアマモ場にすむ生きものたちを紹介するほか、津波で変化してしまった土壤環境を改善する取り組みとして活用している砂団子の作り方を飼育員がレクチャーし、砂団子づくりをご体験いただきました。アマモクイズではお子さまが積極的に手をあげて回答するなど、イベントを通じてお客さまと活発な交流ができました。砂団子も一人で何個も作るお子さまが多く、イベントを楽しんでいただきました。11/3にE-TECさんの砂団子を松島湾に投げるイベントで、今回お客さまに作っていただいた砂団子を使用しました。



『上越市立水族博物館 うみがたり』

報告レポート

「上越市立水族博物館 うみがたり」では、国際的な「SDGs週間」である9月の最終週に「サステナウィーク」と題しさまざまなサステナビリティアクションを行いました。

1. エコもっとFree

2023年10月1日（日）に「エコもっとFree」を実施しました。「エコもっとFree」は、持続可能な社会実現のため、毎月第1日曜日に、うみがたりのスタッフとお客さまと一緒に海洋環境について考え、ビーチクリーン活動を行ううみがたり環境学習プログラムです。

今回は、お客さま6名とスタッフ3名とで、天候は晴れ、気温23.3℃と過ごしやすい日曜日。

海岸は、自治体による清掃活動の成果もあり、大きなごみはありませんでしたが、マイクロプラスチックの元になるプラスチック片を中心に、なんと4.35kgのごみを回収しました。

水族博物館として、ビーチクリーンを通じて海洋環境について、みなさまが少しでも考えてくださるきっかけ作りを、引き続き実施してまいります。



【海洋環境レクチャー】



【ビーチクリーン】

2. 地域連携 まちなかクリーン活動への参画

2023年9月21日（木）、29日（金）に「地域連携 まちなかクリーン活動」を実施しました。

今回は、「無印良品 直江津」と「頸城自動車株式会社」が合同で毎月実施しているクリーン活動に、うみがたりも参画し、海岸清掃と大通り清掃の両方を行いました。9月21日は途中、大雨の影響で中断しましたが、清掃活動を行う中で他企業とのコミュニケーションを図ることができました。今後も、地元企業さまと連携を図り、地域の清掃活動に参画しクリーンな直江津を目指してまいります。



3. 「うみがたりガーデン2023」の実施

水族博物館内の「うみがたりガーデン」では、アクアポニックス（ニシキゴイプールでの野菜の水耕栽培）を海洋高校の生徒20名、教員2名と共同で実施。今回はリーフレタスとコマツナを植えました。また、高校で育てたバジルを使用したピザや、オリジナルブランド商品など、博物館内の店舗にてコラボ商品の販売を行いました。9月19日（火）には、館内でのアクアポニックス紹介水槽の設営。9月21日（木）に、海洋高校で発芽させたレタスやコマツナの苗をプランターに定植。10月には、育てた野菜を水族博物館の生きものに給餌。11月には、アクアポニックスについてお客さまへの成果発表を行いました。「アクアポニックス」は環境問題に配慮した取り組みであり、多くのお客さまや学校団体のみなさまにも知っていただくきっかけ作りを行いました。



【生徒との館内水槽準備】



【アクアポニックス紹介用水槽】



【生徒による栽培野菜の給餌】



【うみがたりガーデン実施】



【成長した苗 左：リーフレタス、右：コマツナ】



【オリジナル商品販売・アクアポニックスで育てたバジルを使用】



『ヒノトントン Z00 羽村市動物公園』

報告レポート

「ヒノトントン Z00 羽村市動物公園」では、国際的な「SDGs 週間」である9月の最終週に「サステナウィーク」と題しさまざまなサステナビリティアクションを行いました。

1. 「SDGs 啓発活動ガイド～堆肥ができるまで～」

2023年9月16日（土）、18日（月）の2日間「SDGs 啓発活動ガイド～堆肥ができるまで～」を実施。両日とも晴天に恵まれ、気温32℃と残暑の中、45名のお客さまに参加いただきました。

ヒノトントン Z00 羽村市動物公園では、SDGsの一環として「動物の残したエサ」や「フン」を利用して園内で堆肥を作成しゴミの削減に取り組んでいます。この啓発ガイドでは、園内で作成・販売をしている堆肥の説明を行い、初日は、堆肥となる前の床材と、実際に動物の残したエサやフンをお客さまにご覧いただきサイクルの説明を行いました。2日目は、スライドを使用して座学での説明や、実際に堆肥を作成しているコンポストにご案内し、仕組みについて説明をいたしました。

暑い中での実施となりましたが、多くのお客さまが興味を持ち、動物園ならではの活動に共感いただきました。今後も動物園ならではの「SDGs 啓発活動ガイド」を実施してまいります。



2. 「多摩川河川敷の清掃活動」

毎月、最終月曜日に多摩川河川敷の清掃活動を実施しています。9月25日（月）に実施した清掃活動は、羽村市役所の職員、羽村市公園指定管理者の職員、多摩ケーブルネットワークテレビの3団体の合同実施となり15名のスタッフが参加しました。朝8時30分より、多摩川の河川敷でゴミ拾いスタート。ペットボトルや空き缶、プラスチックゴミなど、さまざまなゴミを回収しました。この様子は、多摩ケーブルテレビにて、西多摩地域にて放送。少しでも多摩川河川敷のゴミを減らすよう、毎月実施してまいります。

